

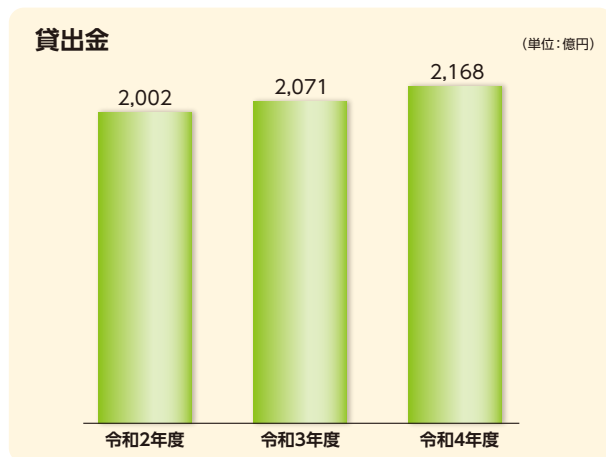
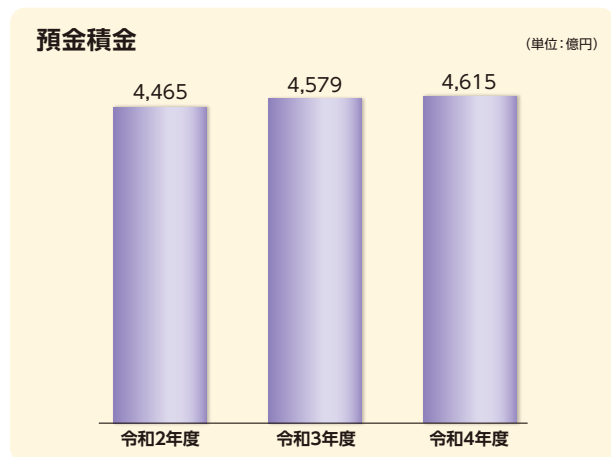
令和4年度の業績

預金・貸出金の状況

預金は、多くのお客さまからの信頼をいただいた結果、前期比35億円増加し、4,615億円となりました。これからも、ライフステージに応じた金融商品の提案を通じて、お客さまのお役に立てるよう取り組んでまいります。

貸出金は、感染症の影響を受けた事業者の皆さま

や、地域の再開発に伴う資金需要に応じた結果、前期比97億円増加し、2,168億円となりました。これからも、厳しい状況が続く事業者の皆さまへの支援を最優先に、適切な金融仲介機能の発揮およびコンサルティング機能の強化などを通じて、地域経済の活性化に努めてまいります。



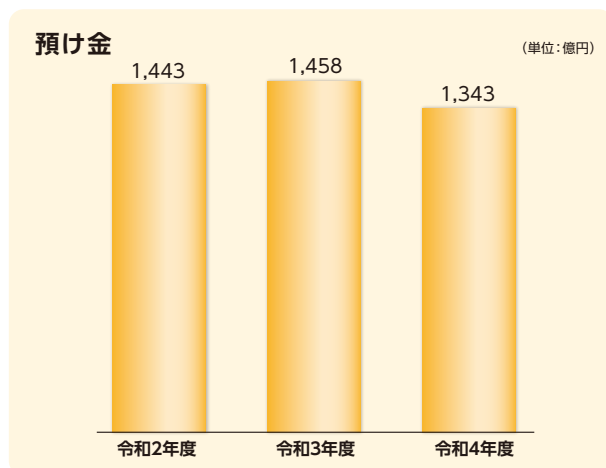
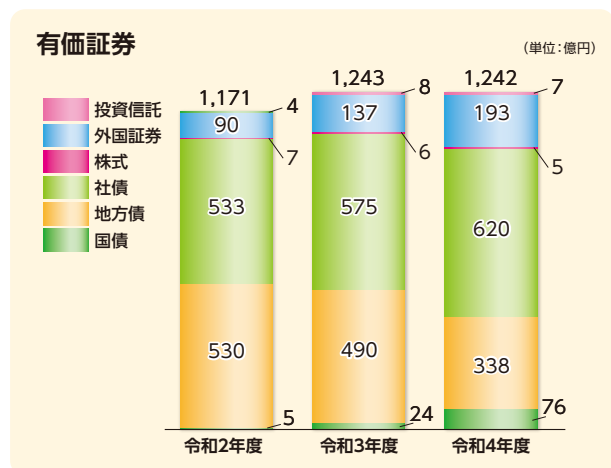
有価証券等の状況

皆さまからお預かりしている預金積金は、主に貸出金として事業活動と暮らしの資金に地元で活用されています。貸出金以外の運用には、有価証券と預け金があります。

有価証券は、地方債、社債を中心に運用しており、期末残高は前期比1億円減少し、1,242億円となりました。安全性・流動性を最優先に格付けの高い国内の債券を中心に運用しています。

預け金は、全国の信用金庫のセントラルバンクである信金中央金庫の定期預け金を中心に運用しています。期末残高は前期比115億円減少し、1,343億円となりました。信金中央金庫は46兆円の資産を有しAA格* (格付機関はJCR) を取得している金融機関です。

*令和5年6月末現在

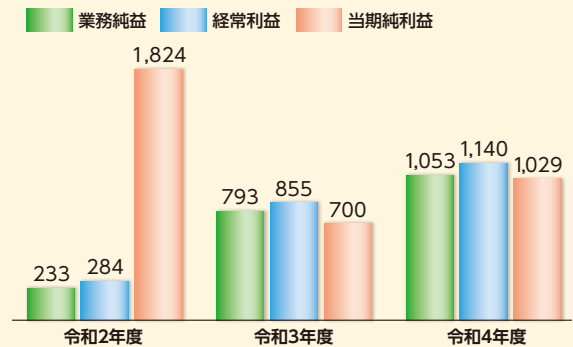


収益の状況

貸出金や有価証券の平均残高が増加したことに伴い、利息・配当金収入も増加したことから、金融機関の本業の利益を示す業務純益は、増益となりました。また、保守的に見積もっていた貸倒引当金について、戻入益が発生したため、経常利益も増益となりました。当期純利益についても、地域の再開発に伴って移転した店舗の不動産売却の影響により、増益となっています。

業務純益／経常利益／当期純利益

(単位：百万円)



自己資本比率の状況

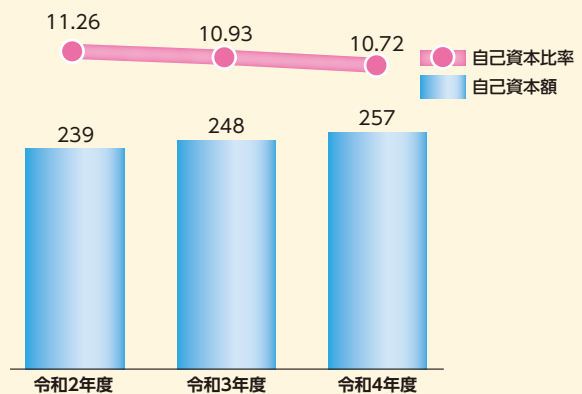
自己資本比率は、金融機関の健全性・安全性を示す代表的な指標です。

当金庫の令和5年3月末自己資本比率は、貸出金や有価証券などのリスク資産の増加に伴い10.72%となりました。国内で営業する金融機関が求められている基準の4.00%を大幅に上回る水準を引き続き確保しています。

なお、公的資金や劣後ローン等による自己資本の増加はありません。

自己資本比率と自己資本額

(単位：％、億円)



不良債権の状況

令和5年3月末時点での金融再生法上の不良債権は59億67百万円、不良債権比率は2.74%です。当金庫の自己査定基準により厳格に査定し、償却引当基準に沿って貸倒引当金を計上し、万全に処理しています。

不良債権59億67百万円に対しては、回収が確実に見込まれる担保や保証43億62百万円と、不足分に対する貸倒引当金9億9百万円、合計52億72百万円により88.34%が保全されています。

その差額6億95百万円が未保全ですが、特別積立金216億24百万円により十分にカバーされており、不測の事態に対する備えは万全です。

不良債権

(単位：百万円)

